

# 新潟大学の留学制度について

短期から長期に段階的につなげる留学プログラムを提供しています

新潟大学では、留学の目的や学習段階に応じて、留学の機会を幅広く提供しています。より多くの学生に国際経験の場を提供するために、海外が初めてでも参加しやすい「ショートプログラム」から、海外で各学部での専門分野を短期間学ぶ「専門分野プログラム」、さらには1学期間または2学期間の「交換留学」へと、段階をあわてて留学できるプログラムを用意しています。

※新型コロナウイルス感染拡大状況によって、実施中止・延期となる場合や、オンラインプログラムに変更となる場合があります。

## STEP 1 ショートプログラム

▶ 1週間から5週間程度

＼ まずは留学を体験してみよう！／

語学研修・異文化体験等を目的とした、全学部の学生を対象としたプログラムです。海外の大学の学生寮に滞在したり、ホームステイをして現地のファミリーと交流したり、海外の生活や異文化に触れることができます。

(例)



北京サマーセミナー

カナダ・サマーセミナー



シンガポール・スプリングセミナー

オックスフォード大学  
スプリングセミナー



こんな学生に  
オススメ！

- 海外に行ってみたい
- 語学を集中的に学びたい
- 異文化に触れてみたい

## STEP 2 専門分野プログラム

▶ 1週間から数か月

＼ 海外で専門分野を学ぼう！／

各学部で用意している、それぞれの専門分野を学ぶためのプログラムです。たとえば、海外の医療現場で臨床研修を経験したり、企業でのインターンシップを経験したり、各専攻に合わせたプログラムが組まれています。

(例)



スリランカでの海外研修(理学部)



ハノイ医科大学病院歯科見学(歯学部・ベトナム)



夏の学校プログラム(工学部・ドイツ)



グローバル農力養成プログラム(農学部・トルコ)

- こんな学生に  
オススメ！
- 海外で専門分野の実習をしたい
  - 同じ分野を学ぶ海外の学生と交流したい
  - 國際会議で発表したい

## STEP 3 交換留学

▶ 1学期間または2学期間

＼ 本格的に外国語や専門分野を学ぼう！／

世界中の大学との間で結ばれた交流協定にもとづき、海外の協定校で交換留学生として外国語や専門科目を学ぶ制度です。留学先では、現地の学生や世界各国からの留学生とともに学ぶことができます。

(例)

仁荷大学(韓国)



ロードアイランド大学(アメリカ)



ミュンスター大学(ドイツ)



ナント大学(フランス)



シドニー工科大学(オーストラリア)



北京大学(中国)

- こんな学生に  
オススメ！
- 飛躍的に語学力をアップさせたい
  - 専門分野への理解をさらに深めたい
  - 留学経験を将来に活かしたい

Pick Up!

## オンラインプログラム

＼ オンラインで世界と繋がろう！／

日本にいながら、オンラインツールを使って海外の大学等の授業に参加できるプログラムです。オンラインを通して語学や専門分野について集中的に学べ、他国の学生との国際交流を経験できる他、実際に海外に渡航する前の準備としても活用できます。



- 海外の大学の授業に参加してみたい
- 普段の生活と両立させたい
- できるだけ費用を抑えて参加したい
- 中・長期留学に向けて準備をしたい

## 体験者の声

創生学部 森本 瑞貴 さん

2021年2月 西シドニーオンライン国際交流学習  
2022年8月～11月 シドニー工科大学交換留学

入学前から交換留学を考えており、留学に繋がるよう大学での授業をデザインしてきました。日頃からFL-SALCでスピーキング対策をする他、ビジネスコミュニケーション、4技能や発音を鍛える授業の履修等、英語に触れる環境に身を置くことを意識しました。また、留学生のチューターとして半年間、レポートの日本語添削や文化紹介に取り組んだ経験から、多様な国の学生との学びに更に意欲が湧きました。長期留学へのファーストステップとして、夏休みに渡航型のショートプログラムに参加したかったのですが、新型コロナウイルスの影響で、現地派遣型のプログラムが中止されたため、西シドニー大学のオンラインプログラムに参加しました。ここでは、キャリアやオーストラリア文化、SDGsについて集中的に英語で学ぶことができました。このような積み重ねもあり、語学要件をクリアし、交換留学へ挑戦することができました。

シドニー工科大学への交換留学中は、オーストラリア言語文化課程コースで自然環境や歴史を学びつつ、レポート作成やプレゼンテーションに取り組みました。予習は、学内サイトにアップされた翌日の授業資料から内容を把握し、復習は、授業資料を見返し、会話で使えるような表現を増やしていました。ディスカッション中心の授業では発言の機会が多いため、間違いを恐れず自分から伝えようとする姿勢が養われたと感じています。現地では日課として、ノート1ページ分の日記を書くこと、英語での独り言動画を記録し、スピーキング向上に役立てることを徹底しました。もちろんテストのために英語を学ぶことも大切ですが、それ以上に、コミュニケーションツールの一つだということを忘れず、英語習得に取り組むことが大事だと思っています。



## よくある質問

### Q. ショートプログラムや専門分野プログラムに参加しないと、交換留学には行けないのでしょうか。

- A. 日本で接する外国の方は、日本人が話す外国語に慣れていますが、海外ではなかなか理解してもらえないこともあります。実際に現地の人と触れ合うことで、理解し合うためにはどのようなことが必要なのかを感じ、コミュニケーションとは何かについて考えるきっかけとなります。1週間での飛躍的な語学力向上は難しいですが、生きた外国語に触れる貴重な経験となります。また、それ以後の学習のモチベーションが高まる、日本との文化の違いを知るきっかけになるなど、語学力以外にも得られるものがたくさんあります。

- A. 交換留学が初めての留学という方もいらっしゃいますが、ショートプログラム等への参加を経て、交換留学などより長期の留学を実現する方が多いです。短期間の留学を経験することで、まず「留学とはどういうことか」が実感でき、その後の学習へのモチベーションが高まります。また、ここ数年はオンラインによるショートプログラムに参加して英語力を身に付け、交換留学に挑戦する方も増えています。初めての海外に不安を感じている方は、現地派遣型のショートプログラムへの参加を、普段の生活と両立しながら交換留学に向けた準備をしたい方は、オンラインショートプログラムへの参加をお勧めします。